

履修科目の内容

(1) 教養科目

科目	単位	学習目的	学習項目	備考
経営戦略	1	経営戦略の概要を学び、就農後の経営計画に必要な知識の、概観をつかむ。また不確実な未来に対し柔軟な戦略手法を生かし、変化に対応できる能力を身に着ける。更に自らのビジネスプラン作成のため、マーケティング戦略の策定できるようになる	1 農業関係の制度資金 2 マーケティング戦略の策定 3 マーケティング調査 4 マーケティング調査の分析 5 流通戦略 6 製品戦略、ブランド戦略 7 価格戦略、プロモーション戦略 8 各自のマーケティング戦略の検討	コース別学習 自営就農コース 農家子弟コース
時事問題	1	わが国の将来を担う農業後継者や関係者として、社会が求める人間的資質を身につけるとともに、授業での活動を人間形成の一助とする。	1 食料問題 2 環境問題 3 変容する家族 4 生命倫理 5 グローバル化する社会 6 豊かな社会 7 生きることの尊さ	コース別学習 就職就農コース 関連産業コース
体育	1	スポーツを行うことで、各自の体力向上、自主性、協調性を図る。また、自身の運動能力を正しく把握する。	1 体育の必要性と意義 2 体育とチームプレイ 3 ルール習得及び実技の実施 4 ゲームを通じた協調	
統計・情報処理	1	基本的な情報処理技術を習得する。また、卒業論文等の作成に必要な文書作成方法について学習する。	1 基礎的な文書作成 2 いろいろなグラフ 3 基礎的な関数	
生物	1	農業に関する基本的な知識、特に用語や基礎理論を正しく理解し、専門科目や実習における学習効果を高めることを目指す。	1 生物の成り立ち 2 生体内の化学反応 3 遺伝 4 植物の反応と調節 5 生物の進化と分類、生物多様性	
心理	1	心に関する諸学説や諸現象を学び、自身にあてはめる。それをもって、自身を知り、周囲の人々とうまく関わっていくかを考えるきっかけを得てもらうことを目指す。	1 心理学とは何か 2 臨床心理学の歴史 3 心の仕組み 4 性格の成り立ち 5 性格に影響を与えるもの 6 感情とは 7 ストレスと心の病気	
郷土史	1	埼玉県歴史を知ることで、農業大学校を取り巻く環境がいかに形成されてきたかを学ぶ。	1 埼玉県の昔と今 2 埼玉県の成り立ち 3 特定の時代にスポットを当てた埼玉県	
国語表現	1	実践や討議を基にして、文章を綴る中で文章表現力を身につけることを目指す。	1 文章の基礎 表記方法の基礎を学ぶ。(仮名遣い、送り仮名、文字の使い分け、句読点、同音異義語、慣用的な表現、正しい敬語、推敲、原稿用紙の使い方など) 2 文章表現の実践 材料をそろえて論文、手紙文などを記述する。	
英語	2	正しい英語音の調音法を、イギリス英語とアメリカ英語の発音の違いに着目しながら修得します。また、英文記事を用いて読解力、作文力を高める。	1 各音素の発音練習 2 文法事項の確認 3 長文読解	「A Shorter Course in American & British English Pronunciation」 「English Indicator 2」 (いずれも南雲堂)

※「備考」欄に示された書籍のうち、「」は教科書を、『』は参考図書を示すものとする(以下同じ)。

(2) 専門科目

科目	単位	学 習 目 的	学 習 項 目	備 考
農業概論	2	農業生産の基礎をなす農地の効率的な利用を促進するための様々な規定を学ぶ。農地の確保や利用に関する基本的な知識を習得し、将来、農業経営計画の樹立に活かせるようにする。また、埼玉の農林水産業を知ること、県内農業に対する考え方や農業環境が理解できるようにすることを旨とする。	1 農業の特徴と役割 2 日本と世界の食糧事情 3 地球環境をめぐる問題点 4 作物、野菜、花き、畜産について 5 農業法律の概要 6 農地法について 7 埼玉の農林水産業の現状と課題 8 埼玉の農林水産業の基本的施策等 9 労務管理と環境整備 10 賃金・人事・社会保険 11 生産管理とその改善方法	『日本農業技術検定3級テキスト』 (全国農業高等学校校長会) 「新・農地の法律早わかり!」(全国農業会議所)
農業機械	1	農業機械の構造及び機能を理解し、安全な使用方法、簡易メンテナンスの知識を習得する。	1 農業機械の意義 2 トラクターの特徴、機能等 3 内燃機関(エンジン)、動力伝達装置 4 稲作、畑作、飼料用機械 5 灌漑、排水、防除用機械	「新版 農業機械の構造と利用」 (農文協)
土壌肥料	1	土と微生物と肥料の名称や働きについて理解を図る。最終的には農作物を栽培するに当たり適正施肥による土づくりが出来るようになることを目標とする。	1 土壌の生産機能 2 土壌調査と土壌診断 3 作物の肥料試験と栄養診断 4 肥料の種類と施肥 5 土壌の管理と改良 6 環境と土壌肥料	『土と施肥の新知识』 (農文協)
農業経営論	1	農業経営を行う上で経営者として知っておかなければならない基本的な「経営的なものの考え方」を学ぶことにより、効率的な農業経営や経営改善に必要な知識を習得することを目標とする。	1 農業経営の指標 2 農業の経営分析・設計・診断 3 経営者能力 4 地域農業と農地活用 5 農業経営の事例研究	コース別学習 自営就農コース 農家子弟コース
社会人基礎	1	社交、ビジネス等の場面で社会人として必要な心構え、基礎知識を学ぶ。	1 労働関係法 2 ビジネスマナー 3 マネーリテラシー 4 コミュニケーション技術	コース別学習 就職就農コース 関連産業コース
経営研究	1	自営就農、農家子弟、就職就農、関連産業の4コースに別れ、各経営者、職員から実践的な経営手法を学び、希望進路に応じた高い資質・能力を養う。	1 野菜・花植木・酪農等の農家が直面する課題 2 経営事例研究 3 事例を通じた課題解決の手法 4 JAの役割、事業、金融、 5 農業共済、収入保険	コース別学習の4コースで開講
農業簿記	2	簿記とは何かを理解し、貸借対照表や損益計算書を作成するために必要な知識を習得する。特に、近年普及が進む専用ソフトによる簿記記帳を考慮し、パソコンでの入力時に重要となる「仕訳」について理解する。	1 複式簿記の基本 2 簿記の体系 3 仕訳の方法 4 決算①(試算表、精算表の作成) 5 決算②(損益計算書、貸借対照表の作成) 6 消費税	「「わかる」から「できる」へ複式農業簿記実践テキスト」 (全国農業会議所)
農産物流通	1	農産物の流通構造は、食の簡便化・外部化、安全・健康志向や物流の技術革新、情報化等の社会環境変化に伴い変化している。現状の農産物の流通構造変化、流通に関わる課題等について学習する。	1 流通の仕組みと役割 2 市場流通の特徴と市場の役割 3 農産物直売所の役割 4 主穀類(米、麦、大豆)の流通 5 野菜類の流通 6 畜産物(牛乳、卵、肉類)の流通 7 花き、植木類の流通	
農業気象	1	農業生産にとっての気象現象のプラス面とマイナス面や、その基本的なメカニズムを理解し、農業生産性の向上に役立てる。	1 気象の基礎知識 2 日本の四季の気象と農業 3 農業気象災害とその対策 4 耕地、農業施設の微気象 5 環境と植物反応	

科目	単位	学 習 目 的	学 習 項 目	備 考
スマート農業	1	スマート農業の基礎知識、実際の活用場面等を実例から学ぶ。	1 スマート農業の基礎知識 2 ドローンの活用 3 土地利用型農業でのスマート農業 4 施設園芸でのスマート農業 5 農作業記録アプリ 6 スマート農業研究開発	
食品概論	1	食品栄養学の総論を学習する。	1 食品の栄養素 2 たんぱく質、脂質、炭水化物 3 無機質 4 ビタミン 5 食物繊維	「食品成分表 改訂最新版」 (女子栄養大学出版社)
食品各論・加工学	1	食品栄養学の各論・加工学を学習する。	1 食品の機能性成分 2 穀類とその加工品 3 豆類、芋類、野菜、果実とその加工品 4 魚介類とその加工品 5 乳類、卵、肉類とその加工品	「食品成分表 改訂最新版」 (女子栄養大学出版社)
生物工学	1	バイオテクノロジー技術を中心とした生物工学の農業等への利用について学ぶ。	1 生物工学の定義、歴史 2 バイオテクノロジーの基本技術 3 医療・化学産業への利用 4 農業・環境への利用 5 最新技術	
基礎実験	1	農業に関する知識と実践を習得するため、実験の基礎を学ぶ。	1 基本的な病害虫の見分け方 2 糖度計測 3 土壌分析	
農産加工実験	1	農産物の高付加価値・高度利用について習得するため、基礎的な農産物の加工技術を習得する。	1 農産加工の意義 2 小麦粉、米、野菜等を使用した加工技術 3 県産農産物加工実験	
生物工学実験	1	生物工学の農業への利用技術を学ぶため、植物の組織培養技術の基本を習得する。	1 組織培養の基礎（器具の使用手法等） 2 培養の目的と材料 3 無菌操作の基本 4 培養物の観察	
農産物加工販売研究	2	農産物加工を行い、利益を上げるにはどのような工夫が必要か、経営体等の現状と課題、今後の展望を研究する。最後に、自らが取り組む農産加工経営を想定して、開発理念や販売計画等を作成するワークシートに取組み、具体的な農産物加工の手法を身につける。	1 農産物加工と販売の現状 2 農産物加工技術の実際 3 農産物加工、販売の優良事例 4 農産物加工、販売が直面する課題 5 ワークシート作成	
有機農業経営研究	1	有機農業者の実践事例を聞くことで、有機農業の特徴や重要性を理解するとともに、受講者が農産物の消費者に対し、正しく情報提供できるようになることを目指す。	1 有機農業の実践と組織活動 2 有機農業と自家採種の重要性 3 有機農業と人づくり、地域づくり 4 有機資源循環、バイオガス等の活用 5 有機農産物の6次産業化 6 都市近郊における有機農業	
農業機械演習	1	農作業安全を基本に、農作業で使用頻度の高い刈払機と農耕用トラクタについて安全な使用ができるようにすることを目指す。	1 トラクタ基本運転 2 日常点検・整備 3 作業機脱着 4 運搬用機械の運転 5 各種除草機械の操作	
毒劇物危険物取扱基礎演習	1	農薬や燃料等の性質理解し、農業の実際場面で役立てる知識を習得する。	1 毒物劇物取扱概論 2 危険物取扱概論	「毒物劇物取扱者試験受験必携」 「乙4類危険物取扱試験受験教科書」

科目	単位	学習目的	学習項目	備考
ゼミ ナール	1	設定課題に対する自主的な研究を通じて、論理的思考能力を高める。	設定した課題ごとに学生をグループ分けし、課題解決のための研究等を行うとともに、その過程を最後にプレゼンテーション形式で発表する。	
農産物加工 応用演習	1	農産物加工の演習を通じて、自ら考える力を養うとともに、農産物の商品開発の基礎を学ぶ。	加工目的別に複数のグループを設定し、課題の設定や加工品の利用方法等について実証を行うとともに、その過程をプレゼンテーション形式で発表する。	
農業政策	1	補助事業を中心とした農林水産省が実施している農業政策について学ぶ。	1 補助事業の基礎 2 6次産業化 3 農地中間管理 4 強い農業づくり 5 経営所得安定対策 6 新規就農 7 みどりの食糧システム戦略	
世界の農業 事情演習	1	国外の農業実施状況について視察を行い、国際的な視野を身につける。	公益社団法人埼玉県農林公社が主催する海外研修に参加し、報告書の作成や研修報告等を実施する。	
植物生理	1	植物の生理・生態を知ることによって、作物の栽培管理技術に関する理解を深める。	1 植物の構造 2 植物の代謝作用 3 炭酸同化作用	「絵とき植物生理学入門」(オーム社)
作物育種	1	作物の品種改良についての理論と品種育成についての基礎的な知識を養う。	1 育種とは 2 育種の原理 3 育種の方法 4 育種技術	
GAP 概論	1	GAPの基礎知識及びS-GAP認証農場の取得方法にむけた農産物生産方法を学ぶ	1 GAPの基礎知識 2 S-GAP 3 農薬の安全な使用 4 農場等の衛生管理 5 環境保全型農業	
作物保護	1	農作物の生育に悪影響を及ぼす要因とそれによる被害の防止対策について学ぶ。	1 病虫害防除の考え方 2 病気の発生 3 害虫の生態 4 病虫害防除対策 5 鳥獣害とその対策	
畜産概論	1	畜産の概要を理解するとともに、現在の状況について学ぶ。	1 我が国の畜産の沿革と特徴 2 家畜の主要品種と飼養状況 3 乳肉の生産に関する要因 4 関係法規	「家畜人工授精講習会テキスト」(社)日本家畜人工授精士協会)『畜産大事典』(養賢堂)
家畜の解剖と生理	1	家畜体を構成する器官の名称と機能を理解する。	1 外貌上の名称と骨格 2 呼吸器系の名称と生理機能 3 消化器系の名称と生理機能 4 泌尿器系の名称と生理機能 5 生殖器系の名称と生理機能 6 生殖器解剖	『家畜比較解剖学図説』『家畜生理学』(いずれも養賢堂)
家畜の飼養管理	1	家畜の管理及び生産をより高めるために、環境管理技術及び衛生管理技術を学ぶ。	1 家畜生産と環境 2 畜舎と付帯設備 3 家畜の衛生管理 4 家畜環境と排泄物処理	「家畜人工授精講習会テキスト」(同上)「乳牛管理の基礎と応用」(デーリィ・ジャパン社)

科目	単位	学習目的	学習項目	備考
家畜栄養	1	家畜の栄養素とその働きを明らかにし、飼料の有効利用と飼料価値を判定し、現場での飼養管理技術への応用力を学ぶ。	1 家畜に必要な栄養素 2 家畜の消化器官と飼料の消化 3 養分の利用と代謝 4 家畜の生産機能と栄養 5 飼料とその利用	「家畜人工授精講習会テキスト」（同上）
家畜育種	1	家畜の能力や体型等における優れた遺伝形質をもたせることを目的とした遺伝のメカニズムの解明と家畜の改良の理論について学ぶ。	1 変異遺伝 2 種畜の選択（外貌、能力、血統） 3 交配法	『畜産学講義』 『家畜育種学』（いずれも養賢堂）
家畜繁殖	2	家畜の繁殖の基礎を理解させ、人工授精に役立つ知識を習得する。	1 繁殖生理 2 精子生理 3 種付けの理論 4 人工授精の効用	「家畜人工授精講習会テキスト」（同上） 『家畜繁殖学』（養賢堂）

（3）短期農業学科のみの専門科目

科目	単位	学習目的	学習項目	備考
農業・食品関係法	1	就農時に必要となる、農業における基本的な法律・制度について学習する。	1 法人設立 2 農薬取締法 3 有機農産物生産 4 食品衛生法 5 収入保険 6 食品表示・加工販売	
農産物マーケティング論	1	自らのビジネスプラン作成のため、マーケティング戦略の策定について学ぶ。また、マーケティング調査の手法を学び、将来の農業経営に生かすことを目指す。	1 企業マーケティングの概要 2 マーケット調査とその分析 3 流通戦略、販売戦略 4 各自のマーケティング戦略	
食品加工実習	1	農産物に付加価値を付け、有利販売に結びつける農産加工に必要な基礎知識と基本的な技術について学習する	1 加工の概要 2 加工事例 3 農産物加工の基礎実習	
総合的病害管理	2	総合的病害虫防除を学習することにより、農薬・化学肥料の削減による安全・安心な農産物を低コストで生産する技術を学ぶ。	1 総合的病害虫防除の仕組み 2 総合的病害虫防除の方法 3 総合的病害虫防除によるコスト削減効果	※短期野菜専攻の学生が対象
有機土づくり農業の	2	農業生産を行ううえで学ぶべき土壌の様々な機能や特徴を知ること、有機農業における土づくりの重要性を理解する。	1 作物の生育に及ぼす栽培環境 2 作物の健全な生育と土壌環境 3 土壌の化学性、物理性、生物性 4 作物の生育障害 5 主要作物の施肥特性と施肥管理	『土づくりと作物生産』（（社）日本土壌協会） ※有機農業専攻の学生が対象

(4) 専攻科目

ア 各専攻共通

科目	単位	学 習 目 的	学 習 項 目	備 考
先進 体験 農家 学習	17	2年課程の学生が、先進的な生産者及び農業関連産業等において優れた農業経営手法等を体験し、知識・技術を深める。	2年次に実日数58日間の先進農家等での体験学習を行い、体験学習終了後に報告書の作成と、体験学習内容のプレゼンテーションを行う。	
専攻 エク プロ 研究	1	1、2年課程の学生がプロジェクト(課題解決)学習の考え方を身につける。	1 プロジェクト学習の進め方 2 計画・実行・分析の手法について 3 計画に基づく学習の実施 4 結果発表	
卒業 論文	8	2年課程の学生がプロジェクト(課題解決)学習の手法を用いて、計画・実行・分析を行う能力を身につける。 課題は「調査研究」又は「経営設計」とし、2回の発表会を通じて発表する能力を高める。	A「調査、研究」 農業技術又は農業経営に関する調査、研究を実施し、論文として取りまとめる。 B「我が家の経営設計」 (1) 自宅が農家である場合は、現在の農業経営の分析と5年後の経営設計について論文としてまとめる。 (2) 新規就農希望者は、5年後の経営設計等について、論文としてまとめる。	
経営 分析 演習	1	1、2年課程の学生が農業経営の実態を整理・分析して、適切な経営設計が樹立できるようにする。	1 経営分析の指標 2 減価償却費の計算 3 投入産出表の作成・分析 4 経営診断の方法	「作目別投入産出表」 (農林部農業支援課編)
初年 体験 農家 学習	1	2年課程1年生の学生が、農業生産現場において農業経営を実地に体験し、知識・技術を深める。	夏期長期休暇時に、実日数5日間の農家体験学習を行う。	
農家 体験 学習	2	1年課程の学生が、農業生産現場において農業経営を実地に体験し、知識・技術を深める。	夏期長期休暇時に、実日数8日間の農家体験学習を行う。	

※2年課程：野菜学科、水田複合学科、花植木学科、酪農学科

※1年課程：短期農業学科

(4) 専攻科目 (続き)

イ 施設栽培専攻

科目	単位	学 習 目 的	学 習 項 目	備 考
施設野菜栽培	3	施設野菜栽培に必要な基礎知識を養うとともに、主要な果菜類の生理・生態と栽培技術を習得する。	1 果菜類の生理・生態と栽培技術 2 作型と品種選定 3 育苗技術 4 土づくりと施肥 5 病害虫・雑草の防除 6 収穫と調整方法 7 温室の管理 8 農業機械の安全使用	「新版 野菜栽培の基礎」(農文協) ※他の科目と共通
野菜機械施設	2	野菜栽培における施設及び装置・機械を合理的に利用するための知識・技術を習得する。	1 施設園芸の技術発展と展望 2 施設装置の性能と改良 3 野菜栽培における機械利用 4 栽培技術の改良 5 養液栽培の装置と利用技術 6 省エネルギー対策技術 7 野菜栽培施設の設計、施工	
野菜経営・流通	2	野菜経営に必要な「経営知識」「経営的なとらえ方」と「多様な流通形態」についての知識・技術を習得する。	1 野菜経営の現状と諸問題 2 野菜経営の特色 3 野菜経営における作付体系の考え方 4 野菜栽培の省力化 5 野菜栽培履歴の記帳と表示 6 野菜流通の現状と問題点 7 卸売市場流通の現状と今後の方向 8 市場外流通	
施設野菜基礎実習Ⅰ	22	実践学習を通して施設野菜栽培の基本的な技術を習得する。	1 栽培管理 ※育苗、施肥、かん水、作物管理、病害虫防除、収穫、調整、出荷販売等 2 施設管理 ※温度・光量調整、機械操作等	○農作物管理のため、土日祝祭日及び長期休暇時に当番作業がある ○販売実習がある ○先進技術を学ぶ
施設野菜基礎実習Ⅱ	7	1年間の経営実践学習を踏まえた自主的な取組を通して、さらに専門的な知識・技術を習得する。	1 栽培の設計・管理 2 調査課題の設計・管理	○農作物管理のため、土日祝祭日及び長期休暇時に当番作業がある ○販売実習がある ○先進技術を学ぶ

ウ 露地栽培専攻

科目	単位	学 習 目 的	学 習 項 目	備 考
露地野菜栽培	3	野菜の栽培に必要な基礎知識を養うとともに、主要な品目についての生理・生態と栽培技術を習得する。	1 品種の選定法 2 育苗技術 3 野菜畑の土づくりと施肥法 4 葉菜類の生理・生態と栽培技術 5 根菜類の生理・生態と栽培技術 6 その他の生理・生態と栽培技術 7 病害虫、雑草の防除法 8 被覆資材の特性と利用法	「新版 野菜栽培の基礎」(農文協) ※他の科目と共通
野菜機械施設	2	野菜作に関するスマート農業を取り入れた機械施設についての知識、技術を習得する。	1 作業機械の特性 2 野菜栽培施設の特性 3 作業機械、栽培施設の効率的利用技術 4 直進アシストラクタによる操作軽減技術 5 環境測定機器等の活用技術	

ウ 露地栽培専攻（続き）

科目	単位	学 習 目 的	学 習 項 目	備 考
野菜流通・経営	2	野菜経営に必要な「経営知識」「経営的なとらえ方」と「多様な流通形態」について知識、技術を習得する。	1 野菜経営の現状と諸問題 2 野菜経営の特色 3 野菜経営における作付体系の考え方 4 野菜栽培の収支計算 5 野菜栽培履歴の記帳と表示 6 野菜流通の現状と問題点 7 卸売市場流通の現状と今後の方向 8 市場外流通	
露地野菜基礎実習Ⅰ	22	露地野菜の基本的な栽培技術を習得する。	1 土づくり 2 植付、育苗 3 施肥 4 は種・定植 5 栽培管理全般 6 病害虫防除 7 収穫・調整・出荷 8 ハウス管理 9 販売	○農作物管理のため、土日祝祭日及び長期休暇時に当番作業がある ○販売実習がある ○先進技術を学ぶ
露地野菜基礎実習Ⅱ	7	1年間の栽培実習を踏まえた自主的な取組を通して、より高度な技術習得を目的とする。	1 栽培計画の作成と実践 2 減農薬・減化学肥料栽培技術の習得 3 生産物の品質評価 4 経済性の検討 5 栽培管理全般	○農作物管理のため、土日祝祭日及び長期休暇時に当番作業がある ○販売実習がある ○先進技術を学ぶ

エ 水田複合専攻

科目	単位	学 習 目 的	学 習 項 目	備 考
主穀野菜栽培	3	米、麦類、大豆等作物及び野菜の生理・生態的な基礎知識と、本県の基本的栽培技術に関する知識を習得する。	1 米、麦類、大豆の生理・生態及び栽培方法 2 水田転作野菜の栽培方法 3 作物の収量構成要素等の基礎的知識 4 病害虫防除、土壌肥料等の基礎的知識 5 農業機械利用に関する基礎的知識	「基礎シリーズ作物入門」（実教出版） 「新版 野菜栽培の基礎」（農文教） ※他の科目と共通
水田複合経営	2	水田複合農業経営に関する労働投下、生産販売に係る費用及び減価償却費用に関する具体的知識及び米、麦、大豆、野菜の販売に関する具体的知識等を習得する。	1 水田複合経営の特徴 2 労働投下 3 生産販売費用計算 4 減価償却計算 5 規模拡大手法 6 先進的経営事例調査	
主穀及び野菜流通加工	2	主穀及び野菜の流通販売及び加工技術に関する具体的知識等を習得する。	1 米・麦・大豆の流通販売 2 米・麦・大豆の消費動向 3 味噌加工技術及び食品衛生管理 4 野菜の流通販売 5 地産地消運動 6 優良産地事例調査	
水田複合基礎実習Ⅰ	22	米・麦・大豆及び野菜栽培実習、実験、演習を行い、基本技術や基礎知識を習得する。	1 米、麦、大豆、野菜の栽培 2 同上の収穫・乾燥・調製及び加工 3 農業機械利用 4 試験、調査法 5 作業計画	○農作物管理のため、土日祝祭日及び長期休暇時に当番作業がある ○販売実習がある ○先進技術を学ぶ
水田複合基礎実習Ⅱ	7	米・麦大豆及び野菜栽培実習、実験、演習を行い、応用技術や応用知識を習得する。	1 米、麦、大豆、野菜の栽培 2 同上の収穫・乾燥・調製及び加工 3 農業機械利用 4 試験、調査法 5 作業計画	○農作物管理のため、土日祝祭日及び長期休暇時に当番作業がある ○販売実習がある ○先進技術を学ぶ

オ 花き専攻

科目	単位	学 習 目 的	学 習 項 目	備 考
花き経営基礎	3	花き経営の近代化及び栽培技術の基礎的な専門知識を習得する。	1 花き栽培技術 (1) 生育と環境 (2) 草姿・開花の調節と品質 2 花きの繁殖と育種 3 花き栽培施設・設備 (1) 施設の構造・被覆資材 (2) 環境調節設備 4 花きの病害虫防除 5 花きの収穫・調整と貯蔵 6 花きの流通・販売、経営収支 7 花き各論 (1) 切り花の種類と栽培技術 (2) 鉢物の種類と栽培技術 (3) 花壇苗物の種類と栽培技術	「花卉入門」 (実教出版) 「花屋さんが知っておきたい花の小事典」 (農文協)
花き経営先進事例研究	4	県内の先進的な花き経営事例を研究し、花き経営の近代化及び栽培技術の急速な進歩に十分対応できる実践的な専門知識を習得する。 農業経営者として、必要な「経営知識」「経営感覚」について学び、経営の合理化や経営改善を行える経営管理能力を養う。	1 切花の先進事例研究 (1) 栽培技術と施設・設備 (2) 流通・販売 (3) 労務管理 2 鉢物・花壇苗物の先進事例研究 (1) 栽培技術と施設・設備 (2) 流通・販売 (3) 労務管理	
花き基礎 実習Ⅰ	22	花き経営実践学習を通して、花き園芸技術を体得し、農業経営者としての基本的知識や技能を養成する。	1 栽培管理 ※育苗、施肥、灌水、病害虫防除、土壌消毒、開花調節、植物成長調整剤の利用等 2 施設管理 3 施設の有効利用方法の検討 4 花き生産物の利用及び販売	○農作物管理のため、土日祝祭日及び長期休暇時に当番作業がある ○販売実習がある ○先進技術を学ぶ
花き基礎 実習Ⅱ	7	主に担当品目の栽培管理を通して花きの栽培技術を体得し、農業経営者としての知識、技能を深める。	1 栽培管理 2 病害虫防除 3 施設管理 4 施設の有効利用方法の検討 5 花き生産物の利用及び販売	○農作物管理のため、土日祝祭日及び長期休暇時に当番作業がある ○販売実習がある ○先進技術を学ぶ

カ 植木造園専攻

科目	単位	学 習 目 的	学 習 項 目	備 考
庭園Ⅰ	1	日本庭園についての基本的な知識を習得する。	1 日本庭園の歴史 2 日本庭園の様式と手法	「葉っぱでわかる造園樹木図鑑」(講談社) 「造園施工必携」(日本造園組合連合会) ※他の科目と共通
庭園Ⅱ	2	庭園についての総合的な知識を習得する。	1 海外の庭園 2 近年の造園と緑化 3 都市公園法	
造園施工Ⅰ	1	造園施工に必要な基本的知識を習得する。	1 造園材料Ⅰ 2 植栽工 3 垣根の施工 4 石組・飛石・延段・蹲踞・灯籠 5 図面の種類と製図の基本 6 安全衛生	
造園施工Ⅱ	1	造園施工に必要な知識を習得する。	1 造園材料Ⅱ 2 芝生の造成と管理 3 花壇の種類と施工 4 造園施工管理	

カ 植木造園専攻（続き）

科目	単位	学 習 目 的	学 習 項 目	備 考
造園管理Ⅰ	1	植木や地被植物の生理・生態を理解し、造園管理に必要な知識を習得する。	1 植木の管理Ⅰ 2 植木の繁殖・生産Ⅰ 3 病害虫・雑草の防除Ⅰ	
造園管理Ⅱ	1	植木や地被植物の生理・生態を理解し、造園管理に必要な知識を習得する。	1 植木の管理Ⅱ 2 植木の繁殖・生産Ⅱ 3 病害虫・雑草の防除Ⅱ	
植木造園基礎実習Ⅰ	22	実践学習を通して、造園技術及び植木生産技術を習得する。	1 植木の整枝・剪定 2 病害虫・雑草防除 3 根巻き・植えつけ・支柱 4 竹垣の作成 5 敷石、飛び石の施工 6 坪庭の設計・施工 7 剪定枝の処理 8 植木等の生産(挿し木・接ぎ木等)、販売 9 車両系建設機械等の操作 10 門松等の作成	○植物管理のため、土日祝祭日及び長期休暇時に当番作業がある ○販売実習がある ○先進技術を学ぶ
植木造園基礎実習Ⅱ	7	実践学習を通して、造園技術及び植木生産技術を習得する。	1 植木の整枝・剪定 2 病害虫・雑草防除 3 竹垣の作成 4 敷石、飛び石の施工 5 植木等の生産(挿し木・接ぎ木等)、販売 6 門松等の作成	○植物管理のため、土日祝祭日及び長期休暇時に当番作業がある ○販売実習がある ○先進技術を学ぶ

キ 酪農専攻

科目	単位	学 習 目 的	学 習 項 目	備 考
乳牛飼養	2	家畜の能力を十分に発揮させ、より生産を高めるための環境管理技術と、人為的要因による飼育管理技術に関して学習する。	1 乳牛の品種と特性 2 仔牛の育成 3 飼料給与法 4 分娩前後の管理 5 搾乳の要領と方法 6 乳期ごとの飼料給与 7 乳房炎の予防と治療	「乳牛管理の基礎と応用」 『酪農ハンドブック』 『畜産大事典』 『日本飼料標準』
酪農施設	1	酪農施設及び付属設備についての知識を習得する。	1 酪農の施設 2 牛舎の種類と特徴 3 酪農関連機器 4 ふん尿処理施設・機械 5 カウコンフォート	「乳牛管理の基礎と応用」 『堆肥化施設の設計・審査技術』
飼料作物	1	飼料作物の栽培管理技術及び利用方法について学習する。	1 飼料作物の種類と特徴、栽培方法 2 飼料作物の生産・利用計画 3 飼料作物の栽培管理機械 4 飼料作物の貯蔵と利用	『酪農ハンドブックサイレージの調整と利用』 『日本飼料標準』

キ 酪農専攻（続き）

科目	単位	学 習 目 的	学 習 項 目	備 考
酪農基礎実習Ⅰ	22	経営実践学習を通して、乳牛の飼養管理及び飼料作物の栽培技術等を体得し、合理的な酪農経営ができるよう学習する。	1 乳牛の飼養管理 2 繁殖・生殖器の解剖 3 飼料作物 4 牛舎及び付属施設 5 糞尿処理 6 衛生管理	「乳牛管理の基礎と応用」 「家畜人工授精講習会テキスト」 『畜臨床繁殖学』 『家畜ふん尿処理の手引き』 『飼料学』 『サイレージの作り方』 『自給飼料全科』 ※教科書は実習Ⅱと共通 ○農作物、家畜管理のため長期休暇、土日祝祭日に当番作業がある ○販売実習がある ○先進技術を学ぶ
酪農基礎実習Ⅱ	7	経営実践学習を通して、乳牛の飼養管理及び飼料作物の栽培技術等を体得し、合理的な酪農経営ができるよう学習する。	1 乳牛の飼養管理 2 繁殖・生殖器の解剖 3 飼料作物 4 牛舎及び付属施設 5 糞尿処理 6 衛生管理	○農作物、家畜管理のため長期休暇、土日祝祭日に当番作業がある ○販売実習がある ○先進技術を学ぶ

ク 短期野菜専攻

科目	単位	学 習 目 的	学 習 項 目	備 考
野菜栽培	1	野菜の栽培に必要な基礎知識を養うとともに、主要な品目についての生理・生態と栽培知識を習得する。	1 品種の選定法 2 育苗技術 3 野菜畑の土づくりと施肥法 4 葉菜類、根菜類、果菜類の生理・生態と栽培技術 5 病虫害、雑草の防除法 6 被覆資材の特性と利用法	「野菜栽培の基礎知識」（農文協）
野菜機械施設	1	野菜作に関する機械施設についての知識を習得する。	作業機械並びに施設についての知識及び安全かつ効率的利用技術を習得する。	
野菜流通・経営	1	野菜経営に必要な「経営知識」「経営的なとらえ方」と「多様な流通形態」について知識を習得する。	1 野菜経営の現状と諸問題 2 野菜経営の特色 3 野菜経営における作付体系の考え方 4 野菜栽培の省力化 5 野菜栽培履歴の記帳と表示 6 野菜流通の現状と問題点 7 卸売市場流通の現状と今後の方向 8 市場外流通	
野菜基礎実習	22	野菜の基本的な栽培技術を習得する。	1 土づくり・施肥 2 は種・育苗・定植 3 栽培管理全般 4 病虫害防除 5 収穫・調整・出荷 6 温室管理 7 販売	○農作物管理のため、土日祝祭日及び長期休暇時に当番作業がある ○販売実習がある ○先進技術を学ぶ

ケ 有機農業専攻

科目	単位	学習目的	学習項目	備考
有機農業 特別講義	1	有機農業関係者や、特徴的な経営方法等実践している著名な農家等から講義していただき、今後有機農業経営するために必要な栽培技術・経営知識を事例から学ぶ。	1 有機農業の栽培技術理論 2 有機農産物の販売事例 3 経営で成功するための販売事例	
有機農業 技術概論	2	有機農業を実践するための資材・道具の使い方、病害虫被害の回避技術、ぼかし肥等たい肥化技術等基礎的な技術を習得する。	1 有機JAS認証について 2 各種資材・道具の使用法 3 有機農法の基本的栽培技術 4 病害虫回避技術 5 たい肥に関する基礎知識	「解説 日本の有機農法」 (筑波書房) 「有機・無農薬のできる野菜づくり大事典」 (成美堂出版)
有機野菜 基礎実習	22	有機農業における野菜の基本的な栽培技術を習得する。	1 土づくり(堆肥づくり) 2 施肥(ぼかし肥料づくり) 3 栽培管理(播種・育苗・定植) 4 病害虫被害回避対策 5 収穫・調整・出荷・販売	○農作物管理のため、土日祝祭日及び長期休暇時に当番作業がある ○販売実習がある ○先進技術を学ぶ

(5) 課外授業等

学習目的	学習項目	備考
チャレンジ・ファーム 卒業後、短期間に円滑な独立経営ができるよう模擬農業経営で経験を積む。	チャレンジ・ファーム 在学中に大学が準備した農地で、自分で栽培したい作物を自由に生産し、販売までを責任を持って取り組む模擬農業経営体験。	
チャレンジ・カンパニー 農業法人の設立と運営について、ゼミナール形式と実践学習で学ぶ。	チャレンジ・カンパニー 法人の設立方法、運営する方法をゼミナール(農業法人ゼミ)で学ぶ他、法人の運営を実践的に学習する。	○チャレンジ・カンパニーは2年生のゼミナールと連動。
特別講座 円滑な就農・就職就農、卒業後の活動に向けて、履修科目で対応できない内容の講義、演習を行う。	特別講座 就農・就職就農等のキャリア教育、先進技術講義、農業機械演習、情報処理演習、農業法人等見学会など。	